



シルクメロン農園からメロンを搬入する利用者ら



下小山田町の農園内にある事業所

事業所で過ごす職員と利用者

メロンの箱詰め作業

土産物として人気のキャンディー

NPO法人プラナス

シルクメロン名産化の担い手に



まちだシルクメロンの出荷や加工の担い手となり、名産品化に一役買っているのが、NPO法人プラナス(佐藤いづみ理事長)の利用者だ。知的障がいのある人が地元産業を盛り上げる形で、社会参画を果たしている。

★ 「まちだシルク農園」で生産されたメロンは、プラナスの運営する生活介護事業所「プラナスクリエイティブセンター」(下小山田町)に運ばれる。出荷するメロンは利用者が箱詰めし、一部の見た目が悪く出荷できないものは、果汁からピューレやゼリーに加工する。「まちだシルクメロンキャンディー」は、町田市内名産品にも認定された看板商品だ。

プラナスは2012年、障がい児と保護者の集まりがきっかけとなり、放課後等デイサービス事業所を開設。卒業後の就労機会を創出する展開も見据え、当時から菓子の製造にも取り組んでいた。メロンとの関わりは、産業界連携で国内初の水耕栽培を始めた商工会議所の持ち掛けで、カットメロンをイベント販売するところからスタート。限られた時間で働ける場を探していた利用者の保護者も農園で受粉や収穫を手伝うなど、連携を深めている。

キャンディーは13年に商品化。相原の加工場でたっぷりの果汁を含むピューレを作り、製法は昔ながらの地釜炊き製法をとる宮城県企業と提携、メロン本来の味に極限まで近づけた。パッケージもお洒落さにこだわって、一見して福祉施設の製品と分らない。市内の観光案内所やイベントなどで、年間2千袋を販売する人気ぶりだ。プラナスの佐藤理事長は「福祉だから買ってもらおうというのではなく、広く欲しいと思われ商品にしたかった」と話す。

「日本一しゅゆ」を製造する岡直三郎商店(本社・旭町)と協力し、しゅゆキャンディーを開発するなど商品の多角化にも意欲的だ。プラナスの高井大輔事務局長は「障がい個人差があり、できることが限られることもある。福祉施設が商品開発や販路開拓に取り組むのは難しいが、就労して工賃を得られる機会を上げていきたい」と語る。

佐藤理事長は「福祉施設は地域の理解があつてこそ、町田市の特産品にも関わることができ、地域との関わりは利用者の大きなやりがいになっている」と目を細めて話していた。

■NPO法人プラナス ☎04276120276 小山町4319の2

つるかわ無料塾 結い

学習支援で結ぶ地域の絆

水曜日の夕方。能ヶ谷いこい会館に、ひとり、またひとりと中学生が集まり始めた。ここは、地域のボランティアが週一で開催している無料塾「結い」(福田有美子塾長。午後6時の開始時刻を迎えると、生徒たちは水を得た魚のように各自持参した課題に取り組み始める。その表情に「やらされている」感じはなし。イキイキと楽しむ姿が印象的だ。

★ 三輪緑山在住の福田塾長は、40代後半で玉川大学教育学部通信教育課程に入学。中学校教員を志して意欲的に勉学に励んでいたが、心の奥底では「年齢的に現場で教壇に立つのは難しいかもしれない」という不安も抱くようになっていた。

「無料塾」を知ったのは、ちょうどそんな頃。2014年に子どもの貧困対策の推進に関する法律が施行されて以降、市民が子どもに食事の機会や学びの場を支援する機運が全国的に高まっていたのだ。「これなら、自分もお手伝いできるかも」。早速、八王子で無料塾を行うNPO法人から開講のノウハウを学んだ。

『塾に行きたいけど、経済的にちょっと厳しいなあ...』というとき、ぜひきてみてね!。地域にポスティ

ングした自作のチラシ。デザインしたカヌーの写真には、「一人で漕ぐと大変でも、2人、3人で漕げば楽になる。困っていることは皆でシェアしよう」という意を込めた。難病により、9歳から中学卒業まで院内学級でも学んだ福田さんの長男。無料塾の開講は、当時助けてもらった地域への恩返しの意味もあった。

18年1月、福田さんと生徒3人でスタートした「結い」。理念に共感したご近所仲間の横山雅代さん、田中の子さんもスタッフに加わり、休憩時間におにぎりとおみそ汁も提供するなど活動の幅を広げた。

また、ボランティアサポーターも50人以上が登録。教育学部の学生や福祉関係の社会人、80代の高齢者など年齢も肩書きもさまざま。なかには同塾を卒業した高校生もいる。「地域のひとと一緒に生きていくと実感できる場。ここで受けた恩を、また別の人に送る。そんな形ができた嬉しい!」

一人ひとりにあった学びをみつけ、多様な生き方を伝える。それが、塾として大切にしていることだ。

■ボランティアサポーター登録の問い合わせ ☎0800-41998-2619



子ども達を支援したい一心でサポートするスタッフ。前列右から2人目が福田塾長



授業中の態度は真剣そのもの。スタッフへ積極的に質問する姿も



マンツーマンで丁寧にサポート